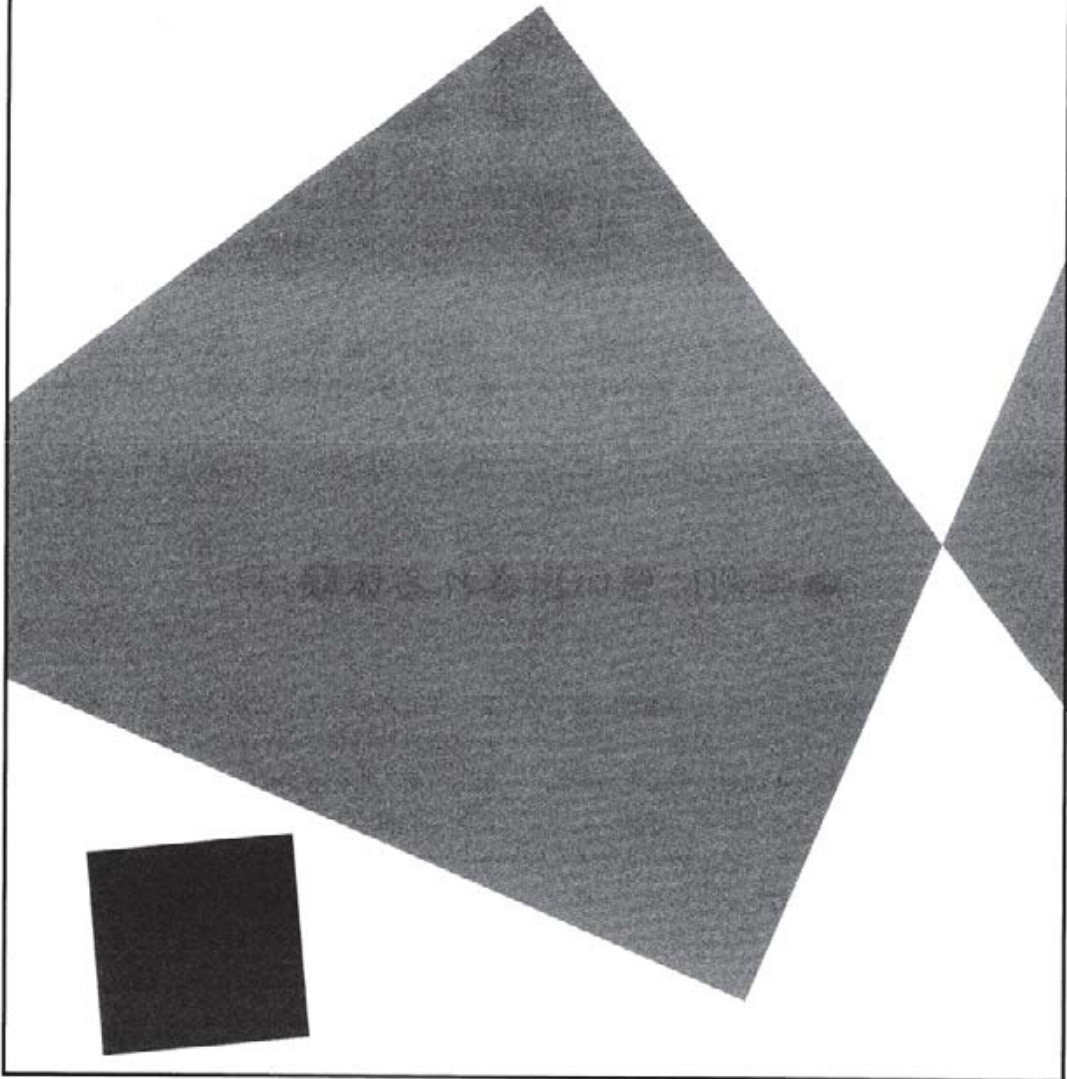


〔第2部〕

母親たちの
学校体験



1. 小学校体験を振り返って



学校での体験がどのくらい将来まで影響をもたらしているのだろうか。また、現代の子どもたちの「学校体験」に関して、母親たちはどのように考えているのだろうか。

調査対象は、東京・千葉・埼玉に住む、平成5年3月に小学校を卒業した子どもをもつ母親256名である。調査の方法は、自由記述方式で、集計はすべて手集計で行った。

●強烈に思い出される体験))

表2-1は、小学校時代のことで強烈に思い出される体験を聞いたものである。うれしかった・楽しかった等、その思い出が自分にとって肯定的であるものを「プラス体験」、悲しかった・いやだった等、否定的であるものを「マイナス体験」としてまとめた。プラス体験は全体の48%、マイナス体験は27%、特にない・思い出せないと書かれたものや無記入のものは25%であった。

体験として書かれた内容をみていくと、大

きく4つに分けることができる。一番多かったのは学校行事といわれているもので、回答のあったものの3分の1を占めている。その中でも運動会については、「地域ぐるみで参加して盛り上がった」「家族みんなで、お昼にはお弁当を食べた」等、書き添えられてあり、マイナス体験0というのうなずける(例1)。

教師との関係においては、プラス体験の出現率は全体の1割程度である。担任教師のや

さしや放課後に勉強を教えてもらったり、スポーツをしたりといったふれあいをあげていた（例2）。

マイナス体験は、回答のあったマイナス体験のうち4割が教師との関係で、「えこひいき」「なぐられた（体罰への恐怖）」「言ってほしくないことを言われた」「信じてくれない」等、文面からも強烈なマイナス体験として、今も心の奥深く刻まれていることがうかがえる（例3）。

友だちに関しては、学校から帰ってから学年や男女の関係なく集団で遊んだ体験がプラス体験のトップであった。「いじめは昔もあった」と言われているが、マイナス体験に「いじめ」と書かれていたものが7例あった（例4）。

その他は主に自分自身にかかわる体験だが、プラス体験は、「がんばったこと」「代表になったこと」と、まとめられそうである。マイナス体験は、「給食がいやだった」「けがや病気」があげられていた。

〔記述例〕

例1 学校行事

●運動会などの行事のときには、家族はもちろんのこと、地域ぐるみで参加していたこと、地域対抗戦などがあって、すごく盛り上がったことを思い出します。

●運動会の前日の夜は、ワクワクして、いつまでも寝ることができないほどでした。運動会の日、家族みんなで、お昼には一緒にお弁当が食べられたのです。いくら徒競走が遅くても、家族みんなでその雰囲気の中で過ごせたことが、とても楽しく思い出されます。

例2 先生

●3年生のとき、母を病気で亡くして毎

日泣いてばかりいたとき、母親のようにやさしくしてくれた先生は、今でも私のことをいろいろ心配してくださって手紙をくださいます。ときどき、先生の家へ遊びに行ったときも、料理や編み物を教えてくれたり、本当にやさしい先生でした。そのため、学校のいじめっ子にも我慢できたことはとても感謝しています。

例3 先生

●小さい頃から歌謡曲をよく歌い、とにかく歌うのが好きでしたが、音楽の時間に一人一人歌わされ、先生に「下手だ」と言われ、それ以来、歌うことができなくなってしまいました。決して人より上手だとは思っていませんでしたが、ものすごくショックでした。言葉を選んで助言してくれていればと、そのときのことが今でも忘れられません。

例4 友だち、先生

●親分、子分制度みたいなものがあり、召集合図がかかると何をしても行かなければなりません。一番つらかったのは、みんなで1人をのけものにしたたり、親分になった子に答案を見せなければならなかったことです。しかし、これは、仲間で、親分になった子のためにも、中学に入る前になくさなければいけないと話し合い解決しました。いつのまにか、知らないうちに先生がドアの外から拍手しながら入ってきたのを思い出します。

表2-1 今でも強烈に思い出される体験

プラス体験	137 (47.9%)	マイナス体験	78 (27.3%)
◎学校行事	73	◎学校行事	0
・運動会	28		
・遠足や修学旅行	15		
・学芸会	13		
・林間学校や臨海学校	8		
・音楽会	2		
・マラソン大会	1		
・ソフトボール大会	1		
・写生会	1		
・入学式	1		
・校庭での映画会	1		
・耐寒訓練登山	1		
・プール	1		
◎教師との関係	28	◎教師との関係	32
・先生のやさしさ	8	・えこひいき	6
〔母を亡くしたとき、やさしくしてくれた 転校がきまり家まで送ってもらった やさしい先生だった など〕		・こわい	6
〔やさしい先生だった など〕		〔なぐられた すぐ怒鳴る 竹の棒でたたかれた など〕	
・放課後の先生とのふれあい	4	・言ってほしくないことを言われた	3
〔わかるまで残して教えてくれた スポーツをした など〕		・言ったことを信じてくれなかった	2
〔わかるまで残して教えてくれた スポーツをした など〕		・担任の急死	2
・先生が遊んでくれた	4	・先生からのいじめ、かばってくれない	2
・先生の自宅へ行った	4	・全員が教室の前に正座させられた	1
・いろいろな歌を教えてくれた	2	・担任による犯人さがし(クラスの出来事で)	1
・先生と出かけた	1	・テストの点数の張り出し-いろいろ言われた	1
・読み聞かせをしてくれた	1	・点数のよい子から前の席に座らされた	1
・楽しい話をしてくれた	1	・外に立たされ九九を覚えさせられた	1
・自宅のはちみつを毎日持ってきてくれた	1	・宿題忘れの罰が大変	1
・校長先生がやさしかった	1	・担任のハレンチ行動	1
・おとなの大きさ、あたたかさを感じた	1	・親の前と子ども前での態度が違う	1
		・酒臭く気に入らないことがあるとなぐった	1
		・先生の駆け落ち	1
		・好きだった先生が突然教師をやめた	1
◎友だちとの関係	15	◎友だちとの関係	21
・学校から帰ってから上級生、下級生、男子、 女子みんなで遊んだ	6	・いじめ	7
・1年から3年まで分校で、皆仲がよかった	2	・転校でなじめず、一人ぼっち	3
・子どもの数が多かったが、仲よしだった	1	・内気、一人っ子で、1人での遊びが多かった	2
・苦手なことを手伝ってくれた	1	・友だちが亡くなった	2
・足の不自由な子に親切にした	1	・いやなことを言われた(方言に対して)	1
・大きな木に登って遊んだ	1	・発言を根にもたれ、帰り道に待ち伏せをされ た	1
・ゴムなわで遊んだ	1	・男子の投げた石が頭に当たり、けがをした	1
・ラブレターをもらった	1	・クラス替えて友だちと別れた	1
・親分、子分のような関係を自分たちで解決した	1	・友だちの転校	1
		・貧乏なことをばかにされた	1
		・仲間はずれ	1

※次ページへ続く

プラス体験	137 (47.9%)	マイナス体験	78 (27.3%)
◎その他	21	◎その他	25
・ 鼓笛隊の指揮者をした	2	・ 給食がまずかった、食べられなかった	7
・ 音楽部の練習	2	・ けが、病気	5
・ はじめて児童会長になった	1	〔 跳び箱で骨折 腕を骨折 病気で入院 など 〕	
・ 自分の絵が金賞になった	1	・ 大きな地震にあった（新潟地震他）	3
・ ポスターで賞をもらった	1	・ カンニング	1
・ 作文が新聞にのった	1	・ シラミーDDTをかけられた	1
・ 卒業式の司会をやった	1	・ テスト前の追い込み勉強	1
・ 跳び箱を残されて練習し、できるようになった	1	・ 吉田茂首相の国葬	1
・ グライダー（鉄棒）ができた	1	・ 自宅近所の火事	1
・ 1年から3年まで「オール5」だった	1	・ 体操のとき、靴がなくて冷たかった	1
・ グループで先生にかわり授業を進めた	1	・ 集金係だったが、なかなかお金が合わなかった	1
・ 図書室でみた二次性徴の話	1	・ 刑事の聞き込み調査	1
・ 裏の寺でみんなで昼寝をした	1	・ 体が弱く、毎日母親が学校に来た	1
・ 雪投げをした	1	・ 臆病でトイレをがまんしていた	1
・ 花を咲かせるため、よく世話をした	1		
・ 学校の近くの水田で田植えから稲刈りまでみんなでやった	1		
・ 夏休みに交代でお年寄りの家へ行った	1		
・ のびのび学校に行った	1		
・ 校舎が木造から鉄筋になった	1		
特にない・思い出せない・無記入			71 (24.8%)

※複数回答は内容に分け、1件ずつ数えた。
()内は出現率(%)を表している。

●成長に役立った体験)))

さて、母親自身が自分の成長にとって役立ったと思っている体験はどんなことだったのだろう。表2-2は役立ったと思う体験をまとめたものである。内容を大きく分類すると、「自分自身の行動や努力」17%、「友だちや遊びに関連したもの」15%、「教師との関係」14%、「家庭・家族に関連したもの」10%、「その他」4%、「特にない・無記入」41%であった。

自分自身にかかわるものでは、「クラブや委員会活動を通して、責任感や達成感を味わった」「スポーツを通して、運動することに自信をもち、現在もよく運動している」

「学級委員をやって、自分自身だけでなく、まわりのことにも気を配ることが少しわかった。積極的になった」等、小学校時代に培われなければならない自己の内面的な成長が、体験を通して意識化されているようである(例1~3)。

友だちとの関係では、自然の中で年齢の異なった仲間たちと集団で遊んだことが最も多く書かれてあった。そして、その中で協調性や自立心を養い、現在も役に立っているという(例4、5)。

また、友だちの死に直面し、命の大切さを感じたり、友だちとのトラブルから自分自身

を見つめなおすきっかけを得たという体験もあった(例6)。

教師との関係においては、「担任からほめられたり、認められたりしたひとこと」が、大きな自信となっているようだ(例7)。

さらに、基礎的な学習(読むこと、書くことなど)の継続的な取り組みや、子どもたちを包みこむようなやさしさが成長に役立ったという(例8)。

家庭・家族に関する内容の中で、「毎日手伝いをした」は15例あり、役立った体験のナンバー1である。また、幼い日、父や母から言われたひとことも心の成長に大きな役割を果たしているようだ(例9、10)。

このようにみていくと、母親たちが現在までも強く心に残る体験は、教師や友だち、親との人間関係が深くかかわった出来事であることがわかる。学校行事においても、それは子どもと教師、親、さらには地域の人々とつくりあげているのである。

集計をしていて驚いたのは、強烈に思い出される体験の無記入が25%、成長に役立った体験の無記入が41%という数値である。人間関係が希薄になっているといわれている現代の子どもたちの将来を考えると、この数値が少しでも小さくなるように、豊かな経験をさせていきたいものである。

[記述例]

例1 クラブ活動

●私は、クラブ活動が始まってからずっと音楽クラブに入っていたので、歌・器楽などで県の大会をはじめ、いろいろの大会に出場できました。

今でも、たくさんの審査員の前で独演(曲の中の一部分)したときのことをしっかり覚えています。人の前で何かをする緊張感は、とてもいい勉強になりました。

例2 遠足

●今と違って遠足といえば、歩いて山登りでした。2～3時間かけての上り坂はとて大変で足がフラフラになりましたが、クラスメートや先生と一緒に登りつめたときのあの感動は忘れられません。その後、何か苦しいことがあっても、そのときのことを思い出すとがんばろうという気持ちになったものです。

例3 登下校

●学校までの道のりのことですが、毎日1時間半をかけて約1里の道を通いました。それが、これまで仕事をするうえで我慢強さにつながっていると思います。

例4 友だち

●田舎で育ちましたので、夕方まで近所の同級生や後輩といろいろ遊びながら、協調性やルールを学びました。仕事をするうえで大変役立っていると思います。

例5 遊び

●現在は、何でもスイッチ1つでものが作れたり見たりできる時代ですが、自分の小学校時代は、遊ぶものもほとんど手作りのものです。例えば、竹トンボ、または飛行機、船、車、竹スキーなど。

戦後間もない時代に自然に養われたものの1つとして、自立心があったと思います。何もなかった時代、自分のものは自分で作って遊ぶという自立心が、今の自分の成長にとって役立っているかと思います。

例 6 友だち

●ふざけていて友だちの服をやぶいたことがあった。その子の泣く姿を見ていてそれでいてあやまれなくて……。ゴメンネと言えない自分が情けなかった。人のいやがることは自分もいやなんだということが、5年生のとき、よくわかって、それ以来、注意してきた。

例 7 先生

●得意なことが1つでもあれば、みんなが認めてくれたし、先生も、よいところがあると、みんなの前で上手にほめてくれた。逆に、悪いことをしたときは自分にだけそっと注意してくれた。

おとなになって、人を見るときに、まずは、よいところをさがせる人間になれていると思う。

例 8 先生

●小学校4、5、6年生の担任の先生が体育のとき、あまり泳ぎが上手でなかった私たちに、休みの日でも学校で泳ぎを

教えてくれた。私は、中学校の頃には、県大会でよい成績を上げることができるくらいになった。それが自分の自信につながった。

例 9 家庭

●学校が終わって家に帰ると手伝いが待っていた。やらなければならない仕事それぞれにあり、協力しあった。

例10 家族

●テストで“カンニングをした”と疑われたことがありました。自分は潔白でしたので、くやしくて、おさまりがつかない状態でした。悩み、友だちにも訴えましたが、まだおさまりがつかず、思いきって父に相談してみました。“間違われるような態度をするな……”と、私を信頼したうえで、父はこう言いました。

人と自分との見方の違い、考え方の違い、いろいろな物事のとり方があることを知りました。そして、人からどう思われても、自分に素直に飾らない態度をとり続けることの潔さを体験しました。

表2-2 自分の成長にとって役立った体験

◎自分自身の行動や努力	43 (16.6%)	◎教師との関係	37 (14.3%)
・運動	8	・担任からのひとことが自信になった	13
{ サッカーをやった	}	{ むずかしい曲に挑戦し、ほめられた	}
{ ボートボールの選手として試合に出場		{ ラジオ体操の代表にしてもらい、自信に	
{ 野球部の活動		{ なった	
{ 走り幅跳びの記録を作った		{ よいところをほめられた	
{ 運動が好き	など	・教師の学習への取り組み(継続学習)	11
・クラブ活動	5	{ 詩や作文をたくさん書かせてくれた	}
・委員会活動	5	{ 家庭科の先生にいてねいに教えてもらった	
{ 放送委員として活躍できたこと	}	{ 読み・書き・計算など毎日やった	など
{ 図書委員だったのでたくさん本を読んだ		・先生のやさしさ、ふれあい	10
{ 卒業文集編集委員として協力しあった		{ 話をよく聞いてくれた	}
{ 卒業文集編集委員として協力しあった	{ 先生に恵まれた	など	
・学級委員	4	・校長先生が色紙をくれた、よく話した	2
・たくさん本を読んだ	4	・修学旅行のお金を出してもらった	1
・鼓笛隊で活躍した	3	◎家庭・家族	25 (9.7%)
・毎日1時間半かけて登校	2	・毎日、手伝いをした	15
・学芸会の主役	1	・父や母からのひとこと	4
・絵をほめられた	1	・家族のやさしさ、きびしさ	1
・屋外ステージで歌を歌った	1	・弟の世話をよくした	1
・ピアノのレッスン	1	・家業の一員だった	1
・そろばん	1	・親子愛—こころ一番は冷静にしたい	1
・ガールスカウトに入団していた	1	・少女小説を父によく買ってもらった	1
・手作り遊び道具を作った	1	・遊びのものを母がよく作ってくれた	1
・自分のことは自分でしていた	1	◎その他	9 (3.5%)
・新聞配達をして自転車を買った	1	・火事になり火に気をつけるようになった	1
・病気で痛い治療を続けた	1	・同じ本を何回も読んだ	1
・掃除、給食当番	1	・野外での会食会	1
・英語を習い、おもしろさを知った	1	・電車を乗りついで、叔母の家へ行った	1
◎友だち・遊び	40 (15.4%)	(人の役に立った喜び)	
・上級生から下級生まで仲よく遊んだ	14	・いとこにミシンを教えてもらった	1
・自然に親しめた	8	・卒業証書を1番でもらった	1
・友だちとのトラブル	4	・旅行で全国から集まった人と親元を離れ過ごした	1
・友だちのことをより知った	4	・車酔いしやすいのに、修学旅行では大丈夫だった	1
・転校したこと	2	・担任が何回もかわり、中学ですぐ慣れた	1
・友だちの死	2	◎特にない・無記入	105 (40.5%)
・遠足(歩いて山登り)、キャンプ	2		
・人間関係	2		
・嫌われている自分を直そうとした	1		
・友だちとのふれあい	1		

※複数回答は内容に分け、1件ずつ数えた。
()内は出現率(%)を表している。

2. わが子の小学校体験



●小学校時代とてもよかったと思えること)))

一方、自分の子どもの小学校でのさまざまな体験を、母親としてはどのように受けとめているのであろうか。

表2-3は、母親にとって自分の子どもの小学校時代とてもよかったと思えることを自由に書いてもらい、まとめたものである。最も出現率が多かったのは、「6年間、元気で過ごし卒業した」「いじめや偏見がなく、子どもが本来の性質をゆがめることなく、のびのび成長した」「家では三女だが、リーダーシップがとれるようになった」といった、子どもの内面の成長である。これは小学校教育でのさまざまな体験が、子どもの心の成長にとって、よい影響を与えていると考えているからであろう(例1)。

次に出現率が多かったのは、先生とのかかわりである。「性格がのんびりした子どもだったが、物事を大局的に理解してくださる先生方にめぐり会えたこと」「担任との対等な立場でのつきあいで自立心ができ、1人の人間としての成長がみられた」といったように、先生の接し方や指導が子どもの自信や積極性などにつながり、成長に大きく役立ったと母親たちは考えている(例2)。

友だちとのふれあいも含めると、人間的なかかわりの中でさまざまな体験を、よかったとらえている母親は4分の1にも達する(例3)。その反面、先生とのかかわりの中でも、「学習の基礎・基本を教わった」というのは2例しかない。つまり、本来、学校教

育の中心であろう学習について、子どもの成長にとって、とてもよかったとらえている母親は4%と極端に少なかった。また、「特になし・無記入」が2割近くもあり、小学校での体験は母親たちの目を通してみると、必ずしも子どもの成長にとって、どの子にとってもよかったとはいえないようである。

〔記述例〕

例1 内面の成長

●第一子なので、何事にも初めてのことばかりで、子どもと本当にたくさんのかたを勉強することができたような気がします。お友だちもたくさんでき、失敗もありましたが、とても素晴らしい小学校6年間を過ごすことができたように思います。勉強はしませんでした。友だちの大切さ、思いやり、やさしい心が少しでももてたと親として確信しています。

例2 先生

●小学校時代の先生というのは、子どもにとって絶対という感じがあって、先生から受ける影響は大きいのですが、6年生のときの担任の先生は、勉強面でも生活面でも子どものことをよく理解していただき、明るく接していただいたのがよかったと思っています。

例3 友だち

●高学年になって、とても信頼できる友人が5～6人でき、転校したが、今でもときどき会って語り合っている。そうした友人ができたことをとてもうれしく思う。

表2-3 小学校時代とてもよかったこと

◎学校生活	11 (4.1%)	・友だちとのふれあい	4
・学級代表になった	6	・友だちと仲よく遊べるようになった	2
・給食で好き嫌いがなくなった	2	◎先生	42 (15.7%)
・養護学校の児童と交流した	1	・担任が子どもを理解して接してくれた	24
・下級生のめんどうをよくみた	1	・担任との信頼関係	7
・よく遊んだ	1	・先生にほめられたこと	3
◎学習	11 (4.1%)	・先生の多様なものの見方	3
・日記や作文の指導で文章力がついた	3	・子どもの自主性や個性を認めてくれた	2
・水泳でがんばった	2	・学習の基礎を教わった	2
・絵が入賞した	2	・子どものよい点を認めてくれた	1
・計算力がついた	1	◎親子	18 (6.7%)
・本が好きになった	1	・親子で一緒に体験ができた	10
・さか上がりができるようになった	1	・どんなことでも親子で話し合っ乗り越えた	6
・テストでよい点をとった	1	・親子で受験をがんばった	1
◎学校行事	18 (6.7%)	・過保護にならなかった	1
・運動会で子どもの成長ぶりをみたとき	9	◎課外活動	16 (6.0%)
・学校行事	2	(バスケットボール、サッカー、野球、吹奏楽、合唱団)	
・移動教室(修学旅行、林間学校)	2	・部活動をやった	5
・お祭り	2	・入賞して自信がついた	2
・自分の力を出せた水泳記録会、連合運動会	1	・友だちがたくさんできた	2
・マラソン大会	1	・チームプレーの大切さを身につけた	2
・卒業式	1	・体力がついた	1
◎内面の成長	45 (16.8%)	・思いっきり運動ができた	1
・元気で過ごせた	8	・朝練に通ったこと	1
・自主性、自立心が育った	6	・楽しく充実していた	1
・思いやりのある子に育った	5	・1つの目的に向かってみんなでがんばった	1
・人前で話せるようになったり積極的になった	5	◎その他	26 (9.7%)
・のびのび成長した	4	・PTAの役員になり学校の様子がよくわかった	13
・まじめに何でもよくがんばった	4	・子どもへの接し方を先生から教わった	4
・明るくやさしい子に育った	3	・親同士が友だちになれた	4
・日々の成長が感じられた	3	・習字を習わせた	1
・素直に成長した	2	・ラジオ体操に毎日行った	1
・つらいことがあっても乗り越えられるようになった	2	・小動物の死を経験した	1
・リーダーシップが育った	1	・自然の中で育った	1
・家族を大切にする子に育った	1	・学習塾に行かせなかった	1
・いやなこととははっきりと言えるようになった	1	◎特にない・無記入	52 (19.4%)
◎友だち	29 (10.8%)		
・たくさんの友だちができた	13		
・仲のよい信頼できる友だちができた	10		

※複数回答は内容に分け、1件ずつ数えた。
()内は出現率(%)を表している。

●おとなになっても思い出せる一番の思い出)))

では、小学校でのさまざまな体験の中で心に深く刻まれ、将来にわたって強い影響を及ぼすであろう、よかったこと、悪かったことは、どんなことだろうか。

表2-4は、自分の子どもがおとなになっても思い出すであろう、一番印象深いことを自由に書いてもらったものをまとめたものである。よかったこと（プラスの体験）が85%、悪かったこと（マイナスの体験）が6%と、母親自身の子どもの頃に比べ、プラスの体験がかなり多くなっている。プラスの体験として最も出現率の多いものが、運動会、移動教室といった学校行事で、4割にものぼる。日本の小学校教育の特徴であるさまざまな学校行事は、子どもの成長にとってプラスの体験であると、半数近くの親がとらえているのがうかがえる（例1）。

次に出現率の多いものとして、課外活動がある。「地域のスポーツチームで泥んこになりながらがんばったこと」「部活動に入ってたくさん試合、練習試合、合宿と、友だちと一緒に行動し、感動したりくやしさに泣いたりしたこと」といった、小学校教育の中だけでは得られない、その子の興味や関心に合ったことを意欲的に取り組んだり、同じ興味や関心をもつ子ども同士がふれあったりする体験は、机に向かった学習活動より、むしろ強く心に刻まれ、将来にわたり大きく影響を及ぼすであろうという考えがうかがえる（例2、3）。

その一方で、マイナス体験として、いじめが3例、先生とのトラブルが6例あった（例4）。マイナス体験のほとんどが、人間関係によるものであった。

〔記述例〕

例1 学校行事

●学校行事の数々だと思います。目標に向かい楽しかったこと、苦しかったこと、悔しかったこと、いろいろなプロセスを経て、行事は子どもたちを確実に成長させてくれたように思います。がんばっている姿を見て、感慨もひとしおでした。

例2 課外活動

●4年から6年まで部活動で合唱団に入っていました。部活動では先輩後輩という、縦の人間関係に交わり、いろいろな人との出会いがあったこと。そして、一生懸命練習をして、合唱コンクールに出たことなどが、いつまでも心に残っていると思います。

例3 課外活動

●小学校3年生のときから6年生まで、ずっとサッカーをやっていました。勉強に関しては、長続きすることがなかったのですが、サッカーに関しては1度もやめたいと言わなかったし、朝練習も自分から起きて行っていました。また、日曜日ごとの試合や高学年になってからは合宿などもやりました。サッカーを通しての友だちとのふれあいや思い出が、一番強いと思います。

例4 いじめ

- 別に楽しい思い出はなかったようです。いやないじめの思い出だけが残っている

と思います。毎日学校に行っても、いやないじめにあって、精神的に勉強に集中できなかったようです。

●母親としての学校に対する希望)))

それでは、自分の子どもの小学校時代を振り返って、こうしてほしかったと思えることは、どのようなことなのであろうか(例1)。

表2-5は、小学校に対する母親たちの注文をまとめたものである。「先生のおかげで素直に育ってくれました。むしろ感謝しています」といったものから、「特にない・無記入」が56%である反面、約半分の母親が自分の子を通して、小学校教育に対しさまざまな要望を持っている。その中で「先生の子どもに対する接し方」が約2割を占めている。これは前にも述べたように、小学校での体験が子どもの成長にとって大きな影響を与えるために、先生に対する注文が最も多いのであろう。また、学習指導に対しては、「基礎的なことをもっとしっかり教えてほしい」ということだけではなく、「養護学校の児童との交流」「老人ホーム訪問などのボランティア活動」「一輪車やパソコン」「社会問題のディスカッション」といったような、今までの教科や教科書中心の学習ではなく、人とのつながりや現代社会に合った体験的学習があげられているのが目をひく。

いじめや不登校などが問題にされる現代。子どもたちの成長にとってよりよい小学校での体験とは、いったい何なのか、母親たちの書いてくれたものを読みながら、じっくりと考えてみたい。

〔記述例〕

例1 学校への希望

- 息子には友だちがいませんでした。1人も！休み時間もお楽しみ会のときもいつも1人でした。自分自身にも責任があったのですが、先生も少し助けてくれたらと思いました。先生は、いつもとても忙しそうに見えました。

- 運動が苦手な子どもで、体育主任の先生が担任になられたときは、特につらい思いをしました。本人は嫌いではないのに球技などはメンバーからはずされていたこともあります。もう少し、思いやりのある授業をしていただけたらと思います。

- 一人一人違った人間なので、もっと子どもを理解してほしい。後ろの壁にテストを張るなど、できてもできなくてもつらい思いをした。子どものことをもう少し考えてほしい。

- あたたかい思いやりの心をもって子どもに接してほしい。欠点を追求し罰を与えるだけでは、やる気をなくしてしまい

ます。

●目立たないとよく言われました。忘れられてしまうようです。一人一人の子どもに同じ気持ちで接してほしいと思いました。

●もっと無駄な時間をたくさん作って、ただ笑顔が出ればよい、ばかばかしいことをたくさんしてほしかった。進むことでなく立ち止まる時間を大切にしてほしい。

●学校は、ただ授業を受けるだけではなく、心も体も健全で明るく人生を送ることが一番大事なことであるということを学ぶところだと思います。

●勉強の出来、不出来、自己主張のできる子、できない子、いろいろな子どもがいると思います。もう少し時間のゆとりをもって、子どもの様子をみていただきたいと思うことがありました。

●子どもたちはそれぞれが走るペースが違うように、学力にもそれぞれ違うペースがあります。みんな同じレベルにしようとして努力されている先生方。私は、でこぼこがあっても当たり前だと思っております。どうぞ、もっと子どもたちの個性に目を向けてくださいますように。

●のびのびと個性豊かに指導していただけた点では不満はありませんが、学習面

でもっときびしく基礎学力を十分に身につけるような指導をしてほしかったと思います。

●読み、書き、計算の学習不足。家庭学習に頼りすぎ。だから、塾に入らなくてはならなくなってしまふ。進度がはやいので、わかる授業と、体得できることを一番にしてほしかった。

●もう少し、学校側に時間の余裕があり、勉強面以外での子ども同士の心のふれあいや、動植物を通じての命の大切さなどを学べたらよかったと思います。とにかく、授業と行事で手一杯という感じが気の毒でもあり悲しい。

●老人ホームやいろいろな施設訪問のような時間が月に1度ぐらいあったらと思います。何か作って持っていったり、遊んであげたり、楽器の演奏や踊りを見せてあげたり、社会に役立っているんだと考えられる機会があったらと思います。

●ものの大事さを自然の中から学んでほしいと思います。地球の自然環境を守る大切さを自分自身の肌で体験して学ぶ時間をもっともっと多くってほしいと思います。

●学校で何もかも引き受けようとするところが無理だと思った。最近よく言われているが、学校と家庭の仕事の役割分担をはっきりさせてほしかった。

表 2-4 おとなになっても思い出せる一番印象深いこと

よかった思い出	270 (84.6%)	悪かった思い出	20 (6.3%)
◎学校生活	26 (8.2%)	◎学校生活	6 (1.9%)
・たくさん遊んだこと	5	・いじめられたこと	3
・日々の学校生活	5	・休みが多く心配をかけたこと	1
・転校で友だちが増えたこと	5	・転校してなじめなかったこと	1
・元気に卒業できたこと	3	・プールに1回も入れなかったこと	1
・給食で好き嫌いがなくなったこと	2		
・お楽しみ会をしたこと	2		
・代表委員として活躍したこと	2		
・まじめによくがんばったこと	1		
・リーダーとして活躍したこと	1		
◎学習	4 (1.3%)	◎学習	0
・絵で入賞したこと	3		
・作文コンクールで入賞したこと	1		
◎学校行事	122 (38.2%)	◎学校行事	1 (0.3%)
・移動教室(修学旅行、林間学校)	62	・運動会でのかけっこ	1
〔親と離れ友だちと過ごしたこと〕	18		
〔夜遅くまで友だちと話したこと〕	2		
〔友だちや先生に親切にしてもらったこと〕	1		
・運動会	22		
〔応援団をしたこと〕	4		
〔組み体操の練習〕	2		
〔1等賞をとったこと〕	1		
〔かけっこでがんばったこと〕	1		
〔リレーの選手になったこと〕	1		
〔協力してがんばったこと〕	1		
・いろいろな学校行事	10		
・遠足	10		
・卒業式	6		
・創立記念のイベント	3		
・謝恩会	3		
・入学式	1		
・社会科見学	1		
・マラソン大会で入賞したこと	1		
・協力して山登りをしたこと	1		
・水泳記録会で入賞したこと	1		
・遠泳	1		
◎友だち	32 (10.0%)	◎友だち	2 (0.6%)
・友だちとのふれあい	16	・友だちとうまくいかなかったこと	2
・たくさん友だちができた	7		
・仲のよい友だち(親友)ができたこと	7		
・友だちの病死	2		

※次ページへ続く

よかった思い出	270 (84.6%)	悪かった思い出	20 (6.3%)
◎先生	26 (8.2%)	◎先生	6 (1.9%)
・先生とのふれあい	13	・先生により指導が違ったこと	2
・よい先生に出会えたこと	9	・先生とうまくいかず悩んだこと	1
・先生にほめられたこと	2	・先生に落ち着かないと言われたこと	1
・先生と泥まみれで遊んだこと	1	・先生にしかられたこと	1
・先生の指導で活躍できたこと	1	・先生に反発したこと	1
◎課外活動	50 (15.7%)	◎課外活動	3 (0.9%)
(バスケットボール、サッカー、野球、吹奏楽、合唱団)			
・部活動を続けてがんばったこと	27	・部活動が続けられなかったこと	1
・部活動を通しての友だちとのふれあい	5	・がんばったのに、しかられたこと	1
・試合でよい成績を出したこと	5	・キャプテンをおろされたこと	1
・みんなで試合や合宿をしたこと	4		
・コンクールやパレードに出たこと	4		
・練習をがんばったこと	3		
・いろいろな人との出会い	2		
◎その他	10 (3.1%)	◎その他	2 (0.6%)
・家族での旅行	7	・生活が苦しかったこと	2
・ウサギを飼ったこと	1		
・親がPTA会長をやったこと	1		
・自然の中で生活したこと	1		
特にない・無記入			29 (9.1%)

※複数回答は内容に分け、1件ずつ数えた。
() 内は出現率 (%) を表している。

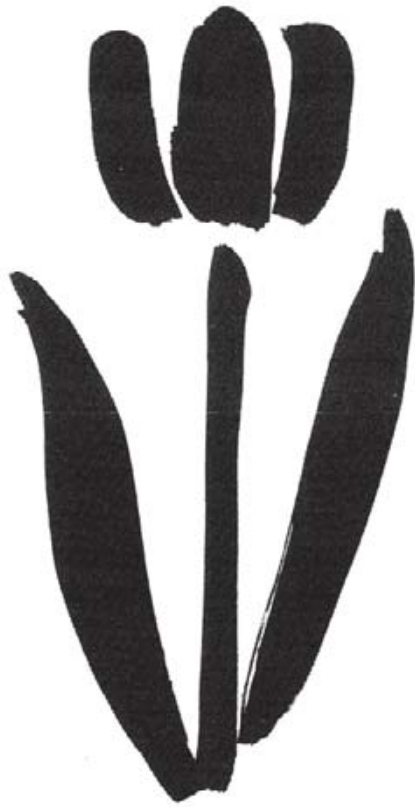
表2-5 学校に対する希望

◎学校教育全般	13 (5.0%)	・着実に力がつくものを学習に取り入れ継続してほしい	2
・個性を伸ばすゆとりある教育	6	・発表力をつけてほしい	2
・枠にはめすぎた教育になりすぎている。もっとのびのびと	2	・夏休みの計画的な水泳指導	2
・思いやりをもてるあたたかさや、やさしさのある教育	2	・楽しい授業、楽しい教室作りを	1
・子どもの創造性を認めるような教育	1	・わかる授業	1
・規則でしかないでほしい	1	・社会科見学など校外での学習を多く取り入れてほしい	1
・無駄な時間をもっととってほしい	1	・作文をもっと書かせてほしい	1
◎先生の児童への対応	45 (17.2%)	・近代史の事実をきちんと教えてほしい	1
・子どもたちとふれあえる時間のゆとりを	5	・老人ホームの訪問など、もっとボランティア活動の体験を	1
・一人一人の性格をみながら接してほしい	5	・養護学校の児童との交流を	1
・ほめて自主性を育ててほしい	4	・一輪車やパソコンの指導を	1
・しかるときはバシッとしかって、あとひかない先生	3	・体験して学ぶ時間を多く取ってほしい	1
・先生の違いによる教育方針の大きな差をなくしてほしい	3	・塾に行っていない子を対象とした授業を	1
・人間対人間としてつきあえるような先生	2	・ものの大切さを自然の中から学んでほしい	1
・子どもたちにもっとあたたかい言葉を	2	・社会問題を取り上げディスカッションを	1
・男の先生を増やしてほしい	2	・窓のガラスふき、草取りなど子どもたちにやらせてほしい	1
・どの子にも平等に	2	◎学校行事	8 (3.1%)
・親の目を気にせず自信をもって指導してほしい	2	・得ることの多い内容ある行事を	4
・言葉遣いをていねいに	2	・子どもたちの考えていろいろな行事を	1
・自分の力を発見できるチャンスをもどの子にも作ってほしい	2	・行事を減らしてほしい	1
・担任は、毎年かわってほしい	1	・林間学校をしてほしい	1
・担任は、毎年かわってほしくない	1	・一人一人が喜びを表現できるような卒業式を	1
・先生の質の向上	1	◎その他	13 (5.0%)
・教師の人間的深さと個性を	1	・設備の充実	2
・骨身を惜しまない協力を	1	・部活動(課外活動)の制限をしないでほしい	2
・子どもを守るための教師であってほしい	1	・少人数制の授業を	1
・先入観でみないでほしい	1	・複数の教師による指導を	1
・子どもの長所を伸ばしてほしい	1	・広い校庭を	1
・子ども同士の輪を広げてほしい	1	・家庭と学校の役割分担をはっきりさせてほしい	1
・自らのやる気を引き出してほしい	1	・親の自立を	1
・挨拶をきちんと教えてほしい	1	・PTA活動の簡素化を	1
◎学習内容、学習指導	35 (13.4%)	・地域の子ども会活動があってもよいのでは	1
・もっと勉強を教えてほしい(基礎学力の充実)	5	・受験の型を変えてほしい	1
・思いやりのある授業を	3	・児童数の増減による不定期なクラス替えをなくしてほしい	1
・わからない子どもにも最後までわかるように教えてほしい	3	◎特になし・無記入	148 (56.3%)
・宿題の量をほどほどに	3		
・わからない子どもには放課後の指導を	2		

※複数回答は内容に分け、1件ずつ数えた。
()内は出現率(%)を表している。

〔対談〕

自由教育と学校改革



自由教育と学校

中野 光氏
(中央大学教授)

深谷 昌志氏
(静岡大学教授)

自由教育の萌芽…成城小学校の試み

深谷 中国からお帰りになったばかりだそうですね。

中野 ええ、10月20日から28日まで9日間滞在して、先週帰ってまいりました。8度目の訪中でした。

深谷 一言ではむずかしいでしょうが、中国の学校はどんな印象でしたか。

中野 今回は大学だけでしたが、今までの経験では教室には整然と机が並んでいて、子どもたちがお行儀よく座っている。教師の頭には教えたいことがあって、それを子どもたちに伝える。一般的には日本と同様でしょうし、また、いろいろ工夫はしていると思いますが、そのことが子どもの意欲とか、関心とか、欲求とどう結びつくのかということがわかりにくいですね。ですから、教室が子どもの自主的な学習の場になりにくいという場合が多いのではないかという印象を受けました。

深谷 中国は主にどこをごらんになってこられたのでしょうか。

中野 河北省の保定（パオチン）です。保定は歴史上では、交通、経済活動、軍事上の要地でしたが、現在は文化、教育の中心地でもあるんです。その南、河南省の鄭州（チョンチョウ）は人口100万くらいの大都市ですが、私が招かれたのは河南教育学院で、そこで戦後の日本の教育について講義してまいりまし

た。教育学院というのは各省に必ず1つずつあり、日本でいうと短大にあたる2年課程の教員養成学校ですが、同時に現職教師の教育センターにもなっています。教育学院というのは中国の教員養成制度の中で非常に重要な役割をしています。

深谷 中国はあれだけ広い国で、しかも何千万、何億という人たちに基礎的な教育を受けさせようとする、今の段階では中野先生がおっしゃったような伝達型の教育にならざるをえないという感じでしょうね。

中野 そうですね。ただ最近、この『モノグラフ・小学生ナウ』で、市川博さんが北京や上海における愉快教育、快樂教育など新しい教育の動きについて報告されていますが、中国にも伝統的な学校教育とそれを乗り越えようとする新しい試みがあるようです。しかし短期間で駆け足でのぞいたという程度では、ごく一般的な状況しかわからないですね。

深谷 ところで、先生がご研究なさっている「大正自由教育」ですが、明治から大正にかけて日本の学校も伝統的には教師が集団に教えるという形をとってきたわけですね。そこでお聞きしたいのですが、「大正自由教育」というのはいつごろはじまったのでしょうか。

中野 1917（大正6）年が1つのエポックだと思います。それは今の成城小学校ができたときです。成城小学校をつくったのは沢柳政太郎⁽¹⁾という、明治期に文部次官を勤めたり、東北大学初代総長や京大総長をした教育界の

改革

【はじめに】

中野光先生は「大正自由教育」研究の第一人者として知られる。それと同時に、生活教育の優れた理論的な指導者でもある。そうした先生に教師の先達たちが、かつてどういう学校をつくらうとしたのかをお聞きしたいと思った。教育史に関心の薄い人も、中野先生のお話に耳を傾けてほしい。

(深谷)

大御所ですが、彼が成城小学校をつくって新しい学校づくりをはじめたわけですか。

深谷 沢柳政太郎がつくらうとした学校というのはどういう学校だったんですか。

中野 1つは学校のカリキュラムを子どもの発達に合わせてつくるということがあったと思います。例えば、成城小学校では1年生の教科の中に「聴き方科」というものをつくりました。沢柳は子どもの言語は4種類、つまり聴くこと、話すこと、読むこと、書く・綴ることの順で発達すると言っています。一番早く発達する言語能力は聴くことで、話せなくても聴くことはできるわけです。その次に話すこと、次に読むことができるようになる。書くこと、綴ることは一番最後というわけです。ところが、学校教育では読み方と書き方の教育しかしていない。その前に聴き方の教育、話し方の教育が必要だという理論です。人間が蓄えた文化は、まず耳から聴くことを通して子どもたちに伝えられていく。子どもは聴くことで文化を摂取して自分の世界を豊かにしていくのです。

また沢柳は、算術とか唱歌というのは名前がおかしいというのです。1年生から数学とか音楽と呼んでもいいのではないかと。教科の背景には文化体系、学問体系があるのだから小学校から数学という名前にしてよい。ただし、1年生としては教科として教える必要はない。ですから成城小学校では数学は1年生ではありませんし、また道徳教育も4年生か

らにしたのです。なぜなら子どもの道徳という意識は、まだ発芽したばかりという状態なので、おとながへたにそれを伸ばしたり崇めたりしないほうがいい。数学とか道徳教育は生活の中でやればよい。例えば、学校では遊びを多く取り入れる。落ち葉を集めてきて、それを分類したり、どんぐりをひろってきてどんぐり遊びをしながら数の勉強をしたりというように、遊びを子どもの中に位置づけることこそ大事なのではないか。学問的なことを教えるのはまだ早すぎるというわけです。カリキュラムの中に発達という概念を取り入

中野 光 (なかの・あきら) 氏 プロフィール

1929年、愛知県生まれ。東京文理科大学で教育学を梅根悟教授に学ぶ。卒業後、桐朋小学校の教師となり、日本生活教育連盟の運動に参加。その後、金沢大学教育学部助教授、和光大学教授、立教大学教授を経て、1990年10月から中央大学文学部教育学科の教授となり現在に至る。教育学専攻。主な研究課題は1920年代の子どもを中心とした教育改革の実践・運動史。主著『大正自由教育の研究』(1968年、黎明書房)で毎日出版文化賞を受ける。『戦後の子ども史』(1988年、金子書房)、『希望としての子ども』(1992年、岩波ブックレット)をはじめ、子どもについての著述も多い。

中野
光氏



れたのはおそらく成城小学校がはじめてではないでしょうか。

深谷 それを実際に展開するわけですね。

中野 そうです。沢柳は1900（明治33）年の小学校令の改定の際の立役者です。国定カリキュラムを作成したときの普通学務局長なんですが、10年たって自分が小学校をつくったときは、まるっきり違うものをやりはじめたのです。それは文部省に在任中を含めて、明治以降の日本の教育があまりにも形式にとらわれていたので、日本の学校は子どもから出発して再生しないと、新しい時代に適応できないという学校改革論がありました。それを実践するために自ら校長になったということだと思います。

深谷 成城小学校というと、児童会などの部分に目がいくのですが、基本的にはカリキュラム改革があったということですか。

中野 そうです。ご存じかもしれませんが、現在の成城小学校には「遊びの時間」というのがあります。聴き方は、今では「文学の時間」になっているのではないのでしょうか。

「大正自由教育」の展開

深谷 沢柳政太郎の成城小学校と、いわゆる⁽²⁾「八大教育主張」との関係はどういうものですか。

中野 沢柳は東京の一出版社の企画で開催された一連の「八大教育主張講演会」の講師の中には入っていないんです。ですから「八大

教育主張講演会」の講師は、必ずしも当時の日本の教育界に影響が大きい8人を選んだのではないといってもいいと思います。例えば関西の教育界では圧倒的な影響力をもっていた、奈良女子高等師範学校の木下竹次が入っていませんし、沢柳政太郎は大物すぎて一出版社としては遠慮したのではないのでしょうか。しかし成城の関係者では、小原国芳の「全人教育論」は成城を舞台としたものでしたから、沢柳政太郎の主張は小原を通して「八大教育主張」に入っているということですね。

深谷 木下竹次はどういう教育をしようとしたのですか。

中野 木下は自分の理論は「学習法」だといっています。それまで教育というのは、教授、訓練、養護の3つの概念に区別され、日本の学校は教授学校、あるいは訓練学校だった。しかし木下は子どもたちの自律的学習を重視する学習論をうち出し実践したのです。

深谷 今になって考えると、木下竹次の理論は非常に新しいものだったんですね。

中野 「教授」とか「勉強」とかいうものを消そうという学習法なんです。つまり、一言でいうと子どもが主体になる教育をつくらうという考え方です。日本の学校は子どもが主体的に学ぶ場ではなく、文字通り子どもに「勉強」を強制する場所でした。学習の主体として子どもを育てようというなら、まず、家庭と学校との断絶をなくし、日常の生活を基本にしたカリキュラムをつくるべきであるという考え方です。これはカリキュラム改革論だったんです。有名な「合科学習」というものがありますが、合科というのは学校のカリキュラムが、読み方、書き方、修身、算術、あるいは理科というように教科ごとに分立していたのですが、それも子どもの立場からすると不自然である、というわけです。合科というのは教科を合わせたという意味ではなく、1つの学習課題を全体として学ぶ。人間の体に例えれば、体というのはトータルなものですから、理科、国語、修身などに分けなくて、どういうときに熱がでるとか、おなかをこわ

すのはなぜか、そういうことにならないためにはどんなことに気をつけたらよいかなど、このような子どもの疑問とか子どもの探究心を基礎にして、それを発達させていくようなカリキュラムにしていこうという考え方ですね。

深谷 現在の生活科を、かなり前に考え、実践していた人がいるということですね。

中野 そうですね。ですから、生活科というのは決して新しいものではないのです。大正時代の低学年のカリキュラムはすべて生活科であるといってもいいと思います。生活科は人生科であると言った人もいました。人間の生き方につながっていくような学習をさせるところが学校であるというのが、大正時代の先進的な学校における考えだったのではないのでしょうか。

深谷⁽³⁾ 手塚岸衛の自由教育というのはどういう教育だったのでしょうか。

中野 「学習には自学を、訓練には自治を」をスローガンに、教科外活動に比重をかけたのが1つの特徴でしょうか。第1次世界大戦が終わって、世の中が大きく変わりつつあった。学校も時代の変化に合わせて変わらなければならないが、当時の学校教育は型にはまっていて自立的な人間が育てていかない。そんな中で手塚岸衛が自由教育を提案するわけです。手塚が試みたのは校則を全廃すること、それから1年生から学級自治会をつくり、子ども自身が1週間の生活活動をきめたり、子ども自身の相互批判を通して集団の教育力をつけていくことなどでした。教科については、感性の教育、芸術教育を重視しました。戦前の音楽の教育は唱歌、図工は工作という感じで芸術教育とはいえなかった。むしろ、道徳教育の一環として教科を教えるという考えですから、芸術を通して豊かな人間を育てるという発想はなかったのです。それに対して手塚が提案したのは、子どもの豊かな感性は1年生から伸ばさなければいけないということなんです。手塚岸衛は自由とは、拘束から解放される、つまり“Free from ~”



深谷昌志氏

という消極的自由ではなくて、より人間的な真・善・美という崇高な価値に向かって人間が進歩していく、あるいは進歩しようとする姿勢とか意欲だと言っているのです。そして、いわば「積極的自由」を使いこなす場面を学校が用意すべきだと主張しています。校則で子どもを統制したり、あるいは子どもの思考を間違った教育で歪めたりしてはいけない。そういう意味で、積極的自由の行使者である子ども、価値探究者である子どもを育てるためには、自由がないとだめだと考えたのです。

後退する「大正自由教育」

深谷 ところで、広がりつつあった自由教育が、ある時期から急速にしばんでいきますが、その背景はどういうことですか。

中野 1つは1923（大正12）年以降、政治の潮流が逆に流れはじめたということですね。1921（大正10）年のワシントン会議で軍縮が提案されると、軍部は文部省と手を結びます。当時の文部大臣は、今の自由教育は行き過ぎだ、教科書以外の副読本を使ってはいけないという官令を出し、成城小学校などで一生懸命やっていた学校劇にも、子どもが役者のまねをしてはいけないといって学校劇禁止令を出した。1925（大正14）年には、中等学校以上の学校に陸軍と文部省との合意で、軍縮による失業軍人を救うという名目と、軍国主義路線を評価するという一石二鳥を意図した陸軍現役将校学校配属令という法律をつくるわ

けです。このようなことに象徴されるように、日本の学校教育は別の方向に傾きはじめるのです。

もう一つは、新しい運動というものも一定の広がりを見せると、やがて新たな困難な課題に当面するという運命にぶつかります。

「大正自由教育」の運動の場合、その理想を実現する条件は厳しかったし、教師の力量も不足だったということがあげられるでしょう。深谷 自由教育に紆余曲折ははじまるわけですね。ところで自由教育といいますが、『窓ぎわのトットちゃん』のトモエ学園を連想しますが、それはそういう状況の中でかろうじて生き残った学校なんですか。

中野 そうです。手塚岸衛が1928（昭和3）年に、現在の自由ヶ丘にトモエ学園の前身ともいべき自由ヶ丘学園をつくりました。名称を「自由学園」にしたかったようですが、1921（大正10）年に、羽仁もと子と羽仁吉一が自由学園をつくったものですから、同じ名前にすることができず、自由ヶ丘学園にしたわけです。1936（昭和11）年に手塚が亡くな

り後継者がいなくて、成城学園の先生だった⁽⁴⁾小林宗作が受け継いで再出発をしました。小林はドイツに留学してリトミックを学び、リトミックを日本に紹介した人として知られています。

深谷 かなりきちんとした流れの中でトモエ学園が誕生したわけですね。

中野 子どもの生活、子どもの発達過程、子どもの内なる要求を基礎にして学校教育を考え直していくという主張は綿々と続いていました。トモエ学園も、日中事変が始まる1937（昭和12）年から自由教育の残り火のような存在でしたが、戦争のためにつぶれました。しかし、その教育理念だけは、そこに学んだ人たちの生き方の中に生きていました。黒柳徹子さんの『窓ぎわのトットちゃん』が、それを生き生きと物語っていますね。

コア・カリキュラムの実践

深谷 ところで先生は、⁽⁵⁾梅根悟たちと一緒に戦後のコア・カリキュラムを身をもって体験



した一番若い世代だろうと思います。コア・カリキュラムについておうかがいしたいのですが。

中野 1948（昭和23）年に、コア・カリキュラム連盟という団体ができました。コアというのは果物でいえば、りんごの芯のようなものです。つまり、従前の学校のカリキュラムには人格形成上の芯がない。伝統的な学校にはおとな、あるいは国が用意したカリキュラムしかない。戦争中のカリキュラムには「皇国ノ道ニ則ル」という芯はあったが、戦後、そのコアは否定されました。

そこで、新しい時代の日本の学校に、どのようなコアがあったらいいのか、理念的には教育基本法に則ったものだけでも、もっとその理念を具体化するというカリキュラムにコアがないといけないというので結成されたのです。

その目的は子どもを未来の主人公に育てるということですが、それではあまりに抽象的すぎる。日常の学習活動におけるコアは、発足したばかりの社会科が中心になるべきだという考え方です。しかし、社会科というのは学習活動ですから、その前に子どもの生活と学校とが結合しないとイケない。つまり、コア・カリキュラム連盟は、大正からはじまる新教育の伝統というものを受け継ごうとした人たちの集まりだったわけです。梅根悟は木下竹次の直接ではないけれども、戦前から木下理論に私淑していた合科学習論者だったのです。

梅根をはじめ30代、いわゆる壮年の教師たちがコア連に結集しました。コア連は、その当時の滝の川小学校、業平小学校、千葉の北条小学校など、公立学校でも新教育の延長上で影響力をもっていた新学校の「学校連盟」といった性格をもっていました。当初は点のような存在でしたが、今こそ第2次新教育運動を展開できる歴史的な時期が巡ってきたのだという認識がありました。幸い、学習指導要領は、学校はどんどん個性的なことをやりなさいということでしたから、コア連は日の

出の勢いでした。コア連は民間文部省といわれるほど影響力も大きかったのです。

ここでカリキュラム論が、梅根悟、海後勝雄、委員長の石山脩平などによって理論化されました。それは「三層構造論」といって、戦前からの新教育運動の学校論を視野に入れていました。学校のカリキュラムは、3つの層からなっており、1つには日常生活課程。つまり子どもには日常生活がある。どのように日常生活を送らせるかという生活指導が必要だということです。初期のころは先生がポケットにかなづちとクギを持っていて、すのこにクギが出ていたらかなづちでたたき、ガラスが割れていたらボール紙をはるとか、そういう活動を子どもと一緒にやった。従来 of 学校ではそういう日常生活を学校のカリキュラムの中に位置づけるということは考えなかったのです。しかし新教育の実践家は、必ず日常生活と学校のカリキュラムの結合というのを大事にしていました。生活綴り方では、教師たちは日常生活に則してものを考える、生活をみつめる、生活の中で考えるという発想でした。これは子どもが発達する上で不可欠な、重要なカリキュラムだったのです。なぜなら、日常生活というのは自分と他者とが交わる、つまり人間と人間が出会うところだからです。人間と出会い、モノと出会うという中で子どもは成長するわけですから、日常生活を学校生活の中でどう保障するかということが今でも重要なのです。

また、日常生活課程の上に問題解決の学習課程がある。そして、もう一つは系統的な学習課程です。これが「三層構造論」の柱です。**深谷** 系統性は認めていたわけですね。

中野 もちろん、そうです。言語とか数の学習がありますから、すべての系統的学習の意識を否定したことはないんです。ただし社会科という新しい教科だけは、国語とか算数と横に並べるような教科ではない。社会科は、問題解決的思考を通して社会をよくする能力を育てるといふねらいをもった特別の教科になるわけです。

個性教育ができる条件整備を

深谷 このところ、子どもからの視点で学校を見直そうということが盛んに言われていますが、そういうことは1世紀も前から脈々と続いてきたわけですね。

中野 そうです。ですから社会科が生まれたというのは、それまでのいくつかの教科に、ただ単に1つの教科が加わったのではなくて学校のカリキュラム全体を社会との関係で、とりわけ社会科を中心として考えていくということでした。社会科についての評価が変わっていくのは、1958(昭和33)年の学習指導要領です。それ以前に安藤社会科⁽⁶⁾というのがありましたが、あの時の学習指導要領は性格を変えて、単に社会に関する知識を子どもに授ける、いわば知識教科にしようというものですから、いろいろな問題が起きました。したがって、それ以後の社会科は名前は同じでも教科としての性格は変わったのです。

ですから、コア連の陽の当たった時代は、案外短かったのです。1948(昭和23)年から1953(昭和28)年までの約5年間です。1953年には日本生活教育連盟と名前を変えました。現在も存続していますが、和光学園がその実験校になっています。

深谷 大正期、戦後、そして今が3回目の、子どもからの教育が可能になった時代がきたという歴史ですか。

中野 そう言えるのではないのでしょうか。ただ、1回目と2回目は教師から盛り上がったということが言えると思いますが、3回目は必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。例えば、臨教審の教育改革で個性重視が政府側から出されてきた。こんなことは今さらという感じですね。むしろ政府がやるべきことは、沢柳政太郎が成城小学校でやったように、個性教育ができるような条件整備をすることです。

深谷 これからでも遅くない。まず条件整備をということですね。

中野 それから先生方に自主性、自律性を保障しないと、本当の個性尊重というのはできていかないのではないのでしょうか。

これだけ画一主義、効率主義が日本の学校を縛っているのは子どもがかわいそうです。子どもには自分で考える条件がない。ある先生にお聞きしたのですが、この頃の子どもは素直に先生の言うことを聞きすぎる、従順すぎるというんです。人格にコア(芯)がない。また、自分という感覚がもてないでいるから、いじめが起きたり、暴力を起す。戦前、池袋児童の村小学校で教師をしていた野村芳兵衛⁽⁸⁾に、「教え子にはどういう特徴があるか」と聞いたところ、「私の教え子は優越感⁽⁷⁾ももっていないし、劣等感ももっていない。『自分』というものをもっていると思います」と言うのです。今の子どもには、そういう自分というものをもてないところに悩みがあるのだと思います。そこを出発点にして学校を変えないと、あまり未来は明るくないという感じがします。

深谷 本日は長時間、大変貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

【対談を終えて】

「大正自由教育」といえば今から70年以上も昔の出来事になる。しかし、その頃でも現在と比べて見劣りのしない優れた実践が展開されていたという。しかも実践の内容が決して古くないのである。それだけに中野光先生のお話を聞きながら、歴史に学ぶことの必要性を痛感した。

(1) 沢柳政太郎 (さわやなぎ・まさたろう1865～1927) 長野県生まれ。東大卒業後文部省に入り、普通学務局長、文部次官をつとめる。東北帝大、京都帝大の総長を歴任、1916年帝国教育会会長、1917年成城小学校を創設して、初代校長となる。国際的にも著名な日本の教育者。1970年代に『沢柳政太郎全集』(全11巻、国土社)が出版された。

(2) 八大教育主張 1921(大正10)年、ある出版社が企画した講習会の内容のこと。8人の講師とその教育論は以下のものであった。樋口長市(東京高師教授)「自学教育論」、河野清丸(日本女子大附属小主事)「自動教育論」、手塚岸衛(千葉師範附属小主事)「自由教育論」、千葉命吉(広島師範附属小主事)「一切衝動皆満足論」、稲毛金七(教育評論家)「創造教育論」、及川平治(明石女子師範附属小主事)「動的教育論」、小原国芳(成城小主事)「全人教育論」、片上伸(早稲田大教授)「文芸教育論」

(3) 手塚岸衛(てづか・きしえい1890～1936) 栃木県生まれ。栃木師範、東京高師卒業。福井師範等の教師を経て1919年千葉師範附属小の主事となる。「自由教育」を旗印として学校改革をおしすすめたが1926年大多喜中学の校長に転出。配属校に煽動された生徒たちの排斥運動によって辞任。その後、東京に自由ヶ丘学園を創設、現在の自由ヶ丘の地名はそこに由来。手塚の死後、学園は小林宗作にひきつがれ、トモエ学園となる。

(4) 小林宗作(こばやし・そうさく1893～1963) 群馬県生まれ。東京音楽学校卒業、小学校の教師となる。1923年ヨーロッパに留学、ダルクロワの音楽理論を学んで帰国、成城学園(幼稚部)の教師となる。1937年、自由ヶ丘学園をひきつぎトモエ学園とする。戦後は同学園を廃校とし、国立音楽大学講師等をつとめ、幼児のためのリズム教育の発展に貢献した。

(5) 梅根悟(うめね・さとる1903～1980) 福岡県生まれ。小倉師範、東京高師、東京文理大を卒業。茨城師範附属小主事、埼玉師範教頭を経て、戦後は川口市助役となる。川口プランの生みの親。1948年、石山脩平、海後勝雄らとコア・カリキュラム連盟を結成。東京文理大、東京教育大の教授を経て、1966年和光大学初代学長となる。

(6) 安藤社会科 当時の文相・安藤正純が教育課程審議会による社会科の改訂案に修正を加えた、という報道がなされたことから、改訂された社会科に対して、そのような呼び方が広がった。

(7) 池袋児童の村小学校 1924年に新教育運動のリーダーたちが東京・池袋につくった私立の新学校。1936年に閉鎖されたが、そこでの教育はユニークだった。

(8) 野村芳兵衛(のむら・よしべい1896～1986)

② あなたは小学校のころ、どの教科が好きでしたか。

	とても 好きだった	わりと 好きだった	あまり 好きでなかった	ぜんぜん 好きでなかった
1. 国語	9.0	45.4	39.1	6.5
2. 算数	16.6	31.5	36.1	15.8
3. 社会	18.1	33.1	33.9	14.9
4. 理科	20.5	41.8	28.7	9.0
5. 体育	50.6	28.6	15.3	5.5
6. 音楽	30.6	33.7	24.5	11.2
7. 図画工作	39.0	36.3	17.9	6.8
8. 家庭科	19.7	34.8	29.1	16.4

③ では、中学生になってからはどうですか。

	とても 好き	わりと 好き	あまり 好きでない	ぜんぜん 好きでない
1. 国語	13.9	52.0	27.6	6.5
2. 数学	21.2	41.1	28.8	8.9
3. 英語	31.9	38.9	21.7	7.5
4. 体育	42.2	36.3	17.2	4.3

④ あなたは小学校のころ、次にあげる行事などに、どんな気持ちで参加していましたか。

	とても 楽しかった	かなり 楽しかった	やや 楽しかった	あまり 楽しく なかった	ぜんぜん 楽しく なかった
1. 遠足	49.5	24.6	17.9	5.2	2.8
2. 運動会	41.3	23.7	22.0	8.8	4.2
3. 運動会の練習	14.2	17.7	25.9	25.0	17.2
4. 水泳大会	27.2	18.6	23.8	16.4	14.0

● 資料1 調査票見本および集計結果

	とても 楽しかった	かなり 楽しかった	やや 楽しかった	あまり 楽しく なかった	ぜんぜん 楽しく なかった
5. マラソン大会……………	12.6	12.2	23.7	24.3	27.2
6. 学芸会……………	26.5	23.6	27.4	12.5	10.0
7. 七夕祭りのような集会……………	16.0	18.7	27.6	22.9	14.8
8. 音楽会……………	22.5	19.5	26.8	18.9	12.3
9. 卒業式……………	28.9	13.2	19.8	18.4	19.7
10. 卒業式の練習……………	11.2	12.0	17.6	26.3	32.9
11. 月曜の朝の全体集会……………	3.2	6.1	13.9	35.5	41.3
12. 大掃除……………	9.1	9.4	20.8	25.9	34.8
13. 修学旅行(移動教室)……………	73.5	12.8	7.4	3.2	3.1

⑤ 小学校のころ、次のような場面で起こったいろいろな出来事ややったことを、あなたはどのくらい覚えていますか。

	とても 覚えて いる	かなり 覚えて いる	すこし 覚えて いる	あまり 覚えて いない	ぜんぜん 覚えて いない
1. 朝、学校に行く前……………	29.8	28.4	25.7	10.7	5.4
2. 朝の会……………	19.5	23.4	30.5	16.9	9.7
3. 授業中……………	26.1	27.3	29.1	11.7	5.8
4. 休み時間……………	40.2	26.7	20.2	8.7	4.2
5. 給食……………	33.6	23.2	24.7	12.8	5.7
6. 朝会や集会……………	18.2	21.0	30.9	18.4	11.5
7. 掃除……………	23.2	20.2	26.2	19.6	10.8
8. クラブ活動……………	49.4	27.5	15.3	4.1	3.7
9. 放課後……………	37.9	20.4	22.2	11.1	8.4
10. 学級会……………	20.0	18.8	26.7	20.8	13.7

- ⑥ あなたは、小学校での生活を通して、どんなことができるようになったと思いますか。次の1～12について教えてください。

	とても そうだった	かなり そうだった	すこし そうだった	あまり そうならない	小学校に 入る前から できていた
1. 何でも残さず食べられるようになった……	15.9	25.2	23.8	16.4	18.7
2. いやなことでもがまんできるようになった……	13.6	33.4	33.5	13.9	5.6
3. いろいろなことに自信ができた……	14.9	26.4	35.6	20.6	2.5
4. 何でもやってみようという気持ちが強くなった……	16.7	25.4	33.1	21.3	3.5
5. 忘れ物をしないなど、規則正しい生活ができるようになった……	11.5	23.5	32.3	26.4	6.3
6. 最後までがんばる力がついた……	16.1	26.6	35.6	17.9	3.8
7. 勉強しようという気持ちが強くなった……	12.5	23.8	33.5	27.2	3.0
8. 友だちと遊ぶようになった……	34.9	18.9	12.6	10.0	23.6
9. スポーツが好きになった……	31.2	17.1	16.3	13.6	21.8
10. 本をよく読むようになった……	17.9	17.6	24.9	30.3	9.3
11. 家庭学習をするようになった……	12.3	20.3	30.3	32.5	4.6
12. 学校が好きになった……	26.6	21.3	23.2	20.4	8.5

- ⑦ あなたは小学校のころ、(国・算・社・理などの)ふだんの授業時間中などで、次のようなことがどのくらいありましたか。

	しょっちゅう あった	わりと あった	たまに あった	ほとんど なかった
1. 先生にほめられてうれしかったこと……	6.1	26.5	48.5	18.9
2. 授業中が楽しくて、次の時間も続けて勉強したいと思ったこと……	9.5	20.0	37.5	33.0
3. 授業の後に本や事典でもっとくわしく調べたこと……	4.0	10.9	33.1	52.0

● 資料1 調査票見本および集計結果

	しょっちゅう あった	わりと あった	たまに あった	ほとんど なかった
4. 自分から進んで手をあげて 発言したこと……………	16.2	25.6	36.8	21.4
5. むずかしくてよくわからなか ったこと……………	12.5	28.8	41.7	17.0
6. 勉強以外のことをして遊んで いたこと……………	23.8	23.5	36.4	16.3
7. 授業内容がやさしすぎて、つ まらないと思ったこと……………	7.1	11.2	33.3	48.4
8. 家で勉強したこと……………	9.6	27.5	41.4	21.5
9. 今まで知らなかったことを授 業で知り、うれしかったこと…	9.5	31.7	38.5	20.3
10. 今までできなかったことがで きるようになり、うれしな ったこと……………	13.0	35.7	37.6	13.7

⑧ あなたは小学校のころ、教科の授業の中で、次のようなことがどのくらいありましたか。

	しょっちゅう あった	わりと あった	たまに あった	ほとんど なかった
1. 国語の詩や作文をがんばって 完成させ、自分なりに満足し たこと……………	11.2	31.8	36.7	20.3
2. 国語の教科書を大きな声を出 して読んだこと……………	12.8	25.3	38.4	23.5
3. 社会の調べものを、いろい ろな資料や事典を使って調べた こと……………	16.8	28.8	33.5	20.9
4. 社会で調べたことを新聞のよ うにまとめたこと……………	26.9	28.5	27.5	17.1
5. 算数のむずかしい問題を自分 1人の力でがんばって解いた こと……………	16.6	30.3	38.5	14.6
6. 算数の問題の解き方をみんな に説明したこと……………	8.6	15.3	34.8	41.3
7. 理科の実験がうまくいき、う れしかったこと……………	17.0	31.5	33.8	17.7

	しょっちゅう あった	わりと あった	たまに あった	ほとんど なかった
8. 理科の観察を長い期間続けてやりとおしたこと……	5.5	16.5	38.6	39.4
9. 図工の作品がうまくできあがり、自分なりに満足したこと…	21.1	31.9	31.3	15.7
10. 図工で、いろいろと工夫して作品を仕上げたこと……	19.7	30.1	35.2	15.0
11. 音楽の合唱や合奏が楽しくできたこと……	26.6	25.8	25.9	21.7
12. 音楽で大きな声で歌を歌ったこと……	23.6	24.0	29.8	22.6
13. 家庭科の実習を楽しく満足してできたこと……	22.7	28.0	26.8	22.5
14. 家庭科で最後までいいいに作品を仕上げたこと……	20.3	29.3	32.5	17.9
15. 体育の授業でいっぱい汗をかいたこと……	46.8	28.1	18.0	7.1
16. 体育の授業が楽しくて、むしろになって運動したこと……	42.6	23.3	20.6	13.5

⑨ あなたは小学校のころ、次のようなことを思ったり、したりしたことがありますか。

	しょっちゅう あった	わりと あった	たまに あった	ほとんど なかった
1. 学校に行くのが楽しみでワクワクしたこと……	22.1	28.1	31.9	17.9
2. 学校に行きたくなかったこと…	11.7	12.7	36.6	39.0
3. 休み時間、男女でいっしょに遊んだこと……	14.6	17.5	29.2	38.7
4. 休み時間、先生といっしょに遊んだこと……	9.8	13.9	29.1	47.2
5. 授業中、答えがわからず不安だったこと……	12.9	20.8	42.9	23.4
6. 学級会で司会をしたこと……	12.3	16.0	29.4	42.3

● 資料1 調査票見本および集計結果

	しょっちゅう あった	わりと あった	たまに あった	ほとんど なかった
7. テストで100点をとったこと…	13.2	32.3	42.9	11.6
8. 算数の問題を黒板に出て書いたこと…	14.3	28.2	43.0	14.5
9. 一生懸命掃除をしたこと…	12.5	29.1	35.4	23.0
10. 他の学年の人といっしょに遊んだこと…	21.1	24.3	29.8	24.8
11. 先生のお手伝いをしたこと…	14.7	29.7	37.3	18.3
12. 気持ちが悪くなって保健室に行ったこと…	5.4	13.5	33.7	47.4
13. 給食を残したこと…	14.6	17.5	30.3	37.6
14. 先生を困らせるようなことをしたこと…	12.7	14.7	37.1	35.5
15. カンニングをしたこと…	4.1	3.5	17.7	74.7

⑩ あなたは小学校時代、次のようなことをされたり、したことがありますか。

	何度も あった	ときどき あった	1、2回 あった	ぜんぜん なかった
1. 友だちに仲間はずれにされたこと…	8.4	12.5	29.9	49.2
2. 友だちとなぐりあいのけんかをしたこと…	8.1	13.7	23.3	54.9
3. 運動会でリレーの選手になったこと…	22.1	10.7	18.0	49.2
4. バスケットボールの試合でシュートをいれたこと…	27.2	33.5	20.2	19.1
5. 学芸会で主役のような目立つ役をしたこと…	7.4	11.8	20.6	60.2
6. クラスの中心になって何かをやったこと…	11.7	17.6	26.5	44.2
7. 友だちをいじめたこと…	8.4	18.9	35.0	37.7

	何度も あった	ときどき あった	1、2回 あった	ぜんぜん なかった
8. 先生から感動するような話を聞いたこと……………	4.9	10.9	17.9	66.3

どんな話ですか。

①戦争の話	23	⑤命の大切さや人命救助	6
②身体障害者の話	15	⑥先生の小学校時代の話	6
③先生のお父さんが亡くなった話	10	⑦未来のことを考えて	2
④卒業式のときの話	8	⑧韓国に帰った友だちの話	2

	何度も あった	ときどき あった	1、2回 あった	ぜんぜん なかった
9. いやなことを無理やりさせられたこと……………	7.0	9.1	19.2	64.7

どんなことでしたか。

①委員会、係の仕事（係や委員会のおしつけられたなど）	61
②友だちとの人間関係（無視されたり、悪口を言わせられたり、仲間はずれなど）	47
③掃除、清掃活動（トイレ掃除、ゴミ捨てなど）	43
④先生との人間関係（先生の手伝い、感想文や作文を書かされた、お茶入れなど）	20
⑤授業に関して（水泳、みんなの前で何回も跳び箱をとばさせられたなど）	16

	何度も あった	ときどき あった	1、2回 あった	ぜんぜん なかった
10. すごく楽しかったこと……………	49.8	21.6	13.6	15.0

どんなことでしたか。

①校外行事（修学旅行、移動教室、林間学校、遠足など）	232	④運動会	29
②休み時間や放課後に友だちと仲よく遊んだこと	162	⑤体育の授業（バスケットボール、サッカー、プールなど）	26
③学級・学年行事（スポーツ大会、お楽しみ会、クリスマス会など）	42	⑥クラブ活動	13
		⑦図画工作の時間	8
		⑧卒業式や謝恩会	8

	何度も あった	ときどき あった	1、2回 あった	ぜんぜん なかった
11. 表彰されたこと……………	8.3	19.7	31.3	40.7

どんなことでしたか。

①絵や工作	173	⑥ポスター	29
②習字・書き初め	99	⑦標語・交通安全	20
③作文や読書感想文	69	⑧水泳の記録会	16
④マラソン大会	34	⑨漢字テスト	11
⑤球技	31	⑩なわとび大会	11

⑪ あなたは小学校を卒業するまでに、次のようなことができましたか。

	とても できるように なった	わりと できるように なった	すこし できるように なった	あまり ならな かった	ぜんぜん ならな かった
1. 小学校で習った漢字のほとん どが書ける……………	11.5	40.0	32.2	12.2	4.1
2. 小学校で習った漢字のほとん どが読める……………	36.5	40.9	15.8	5.0	1.8
3. 小数や分数の計算ができる……	36.4	36.9	17.6	6.4	2.7
4. むずかしい問題でも自分の力 で解くことができる……………	14.7	28.8	35.3	15.8	5.4
5. ジャがいもを育てることがで きる……………	22.7	24.0	26.0	16.5	10.8
6. 冬の夜、カシオペア座を見つ けることができる……………	20.9	17.7	18.9	20.6	21.9
7. 歴史上の人物を10人くらい言 える……………	35.0	22.1	21.5	12.5	8.9
8. 憲法の3大原則を言える……………	17.1	11.8	16.9	25.7	28.5
9. さかあがりができる……………	57.5	12.5	7.9	6.8	15.3
10. ランニングシュートができる…	32.4	17.7	18.9	16.2	14.8
11. 25メートル泳ぐことができる…	66.7	11.6	7.5	5.8	8.4
12. みそ汁を作ることができる……	50.3	18.6	13.7	7.4	10.0
13. 絵の具を使って写生が上手に できる……………	19.2	23.0	27.9	17.1	12.8
14. たて笛でいろいろな曲を上手 に吹くことができる……………	28.7	21.7	22.2	14.2	13.2
15. ぞうきんを上手にしばれる……	55.9	22.0	13.0	5.1	4.0
16. みんなの前で自分の意見を言 うことができる……………	22.0	20.6	27.5	17.9	12.0
17. 代表であいさつをすることが できる……………	19.5	16.8	23.6	21.0	19.1
18. 新しい友だちとも、すぐ仲よ くすることができる……………	41.9	28.4	18.4	7.1	4.2

⑫ あなたは小学校のころ、次のようなことを先生からしてもらったり、されたりしたことがありましたか。

	しょっちゅう あった	わりと あった	ときどき あった	あまり なかった	ぜんぜん なかった
1. 困っているとき、助けてもらったこと……………	10.0	21.4	34.7	19.8	14.1
2. ほめられたこと……………	12.1	28.9	37.9	12.7	8.4
3. やさしくされたこと……………	14.3	25.3	32.5	16.7	11.2
4. しかられたこと……………	20.4	19.5	30.5	22.5	7.1
5. バカにされたこと……………	8.3	6.0	12.7	26.2	46.8
6. なぐられたこと……………	6.6	5.4	10.9	16.5	60.6

⑬ あなたは小学校のころ、次のようなことを友だちからしてもらったり、されたりしたことがありましたか。

	しょっちゅう あった	わりと あった	ときどき あった	あまり なかった	ぜんぜん なかった
1. 困っているとき、助けてもらったこと……………	19.8	30.9	30.1	12.0	7.2
2. はげまされたこと……………	19.7	29.5	29.3	13.6	7.9
3. やさしくされたこと……………	24.9	32.1	26.5	9.5	7.0
4. いじめられたこと……………	7.1	6.7	17.0	28.8	40.4
5. バカにされたこと……………	9.0	9.9	19.3	25.5	36.3
6. なぐられたこと……………	8.2	5.7	12.8	20.0	53.3

⑭ 小学校の生活をふり返って、「あの日はいい一日だったなあ」と思い出せるような日がありますか。そのときのようすを教えてください。

前掲(P. 54)

● 資料1 調査票見本および集計結果

- ⑮ (1) あなたが好きだった先生は小学校何年生のときの先生ですか。
いくつ〇をつけてもいいです。

44.0	44.9	52.1	46.1	46.0
1. 1年生	2. 2年生	3. 3年生	4. 4年生	5. 5年生
6. 6年生	7. 音楽	8. 家庭科	9. 図画工作	
51.8	37.4	13.8	30.9	

- (2) 今でも小学校のころの、担任だった先生に会いたいと思いますか。

とても 会いたい	わりと 会いたい	あまり 会いたくない	まったく 会いたくない
36.6	34.9	15.5	13.0

- ⑯ あなたが小学校時代やったことで、これはまったくやる必要がないと思うものを3つ書いてください。

(1)教科	国語（習字、読書、書き方など）	27						
	算数（そろばん、図形の問題、ドリルなど）	14						
	社会（歴史の勉強など）	12						
	理科（生き物の観察、実験など）	30						
	音楽（たて笛、合唱など）	43						
	図画工作（工作、絵など）	24						
	体育（鉄棒、マット、スポーツテストなど）	77						
	家庭科（洗濯の仕方など）	23						
	道徳	3						
(2)行事・その他								
	朝会、集会	179	運動会	33	掃除	23	授業参観	15
	マラソン大会	65	学芸会	23	クラブ活動	16		

- ⑰ 最後に、あなた自身のことをお聞きます。

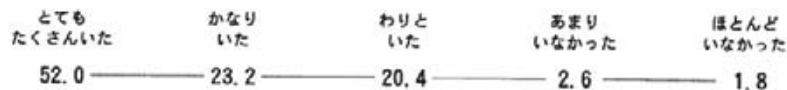
- (1) 小学校の生活は楽しかったですか。

とても 楽しかった	わりと 楽しかった	あまり 楽しなかった	ぜんぜん 楽しなかった
48.9	37.6	8.7	4.8

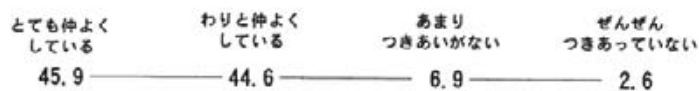
(2) 小学校の勉強は楽しかったですか。



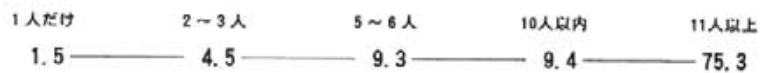
(3) 小学校のとき、友だちはどのくらいいましたか。



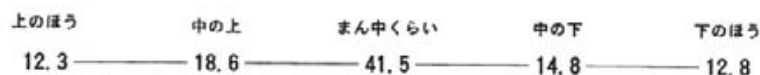
(4) 小学校のときの友だちとは、うまくいっていますか。



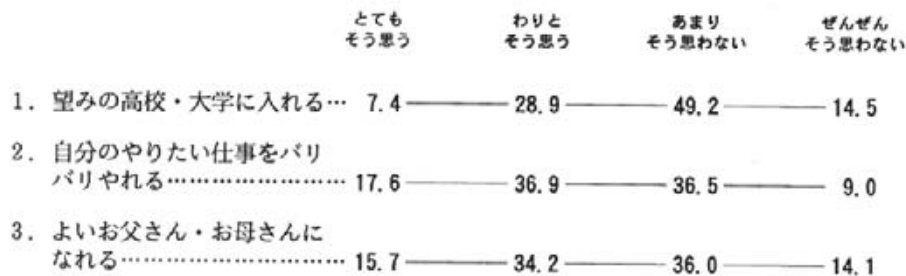
(5) 中学生になって、友だちは何人くらいできましたか。



(6) あなたの小学校のときの成績は、クラスでどのくらいでしたか。



(7) あなたは将来、どんな生活を送れると思いますか。



● 資料1 調査票見本および集計結果

	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
4. お金持ちになれる……………	11.6	15.5	51.3	21.6
5. 幸せに暮らせる……………	30.1	39.0	23.3	7.6

(8) あなたはどんな子だと思いますか。

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. いつも明るく元気……………	34.6	41.3	19.6	4.5
2. 友だちに親切……………	17.7	45.1	30.3	6.9
3. 友だちづきあいがよい……………	25.0	46.6	23.3	5.1
4. 最後までがんばることがで きる……………	18.8	37.6	34.0	9.6
5. 礼儀正しい……………	13.8	31.6	40.9	13.7
6. 学校の規則をよく守る……………	13.8	37.7	34.4	14.1
7. スポーツが得意……………	28.7	27.7	28.5	15.1
8. 先生に気に入られている……………	7.2	22.6	48.3	21.9
9. 学校行事などでリーダーに なる……………	9.3	16.2	43.3	31.2
10. 遅刻や欠席をしない……………	37.3	33.4	20.3	9.0

(9) 最後に、小学校のころやったことで「今、とても役に立ったな」と思うことを、どんなことでもかまいませんので書いてください。

①勉強	125	⑥予習・復習	11
②クラブ活動	38	⑦礼儀・あいさつ	8
③友だちとのつきあい	22	⑧先生の注意	5
④係の仕事や委員会	19	⑨掃除	5
⑤先生の話	18	⑩自分の気持ちをはっきり 言ってクラスをまとめる	2

——これで終わりです。どうもありがとうございました。——

保護者の方へ

アンケートのお願い

私どもは、小学校でのさまざまな行事や学習活動が子どもたちの成長発達にどのような影響を与えているのか探るため、次のような調査票を作成いたしました。保護者の方々の率直なご意見をお聞かせいただきたく存じます。

お忙しいところ申し訳ございませんが、どうぞ協力下さいますようお願い申し上げます。

お手数ですが、用紙にご記入の上、封筒に入れのり付けし、無記名のまま、お子さんに先生までお持たせ下さい。

代表 静岡大学教授 深谷 昌志

【1】 あなたが小学生だった頃のことを思い出して下さい。

- (1) 小学校時代に学校であったことで、今でも強烈に思い出される体験がありましたらお書き下さい。

[]

- (2) 小学校時代に体験したことで、自分の成長にとって役立ったと思われる出来事がありましたらお書き下さい。

[]

【2】(1) お子さんの小学校時代、母親としてとてもよかったと思えることがありましたら
お書き下さい。

[]

(2) お子さんが大きくなったとき、小学校時代を振り返って、どんなことが一番思い出に残っていると思いますか。

[]

(3) それでは、お子さんの小学校でこうして欲しかったというような学校に対する注文がありましたらお書き下さい。

[]

—————ご協力ありがとうございました。—————